



水族館でスマイル 池袋・サンシャインで子どもイベント 2022.4.5.

第2回「子どもスマイルイベントinサンシャインシティ」が東京・池袋のワールドインポートビルで開催されました。豊島区内の25人の子どもたちが参加し、みんなで水族館見学、シナリオづくり、お弁当と、お昼過ぎまで楽しいひとときを過ごしました。

子ども達は、豊島子どもWAKUWAKUネットワークの栗林知絵子理事長にアレンジしていただき、今回は、新たに南大塚や駒込の母子家庭の方にも参加していただきました。昨年に続き二回目の方、初

めての方、小学一年生から中

高生まで、ミャンマー、ネパール、中国などと関係の深い子ども達もいて、多様で幅広い参加者となりました。9人のキワニスメンバーのほか、保護者、引率のボランティア計12人、シナリオ講師、サンシャインビルの相澤専務、大関さんらにもご協力いただきました。

水族館訪問は初めてということで、開館より早く最初の30分は貸し切りの形で特別に受け入れてくれました。子ども達が水槽に走り、ジーっとお魚さんたちに見入っている姿は真剣そのもの。きらきら光るクラゲのトンネル、サメや魚群の大水槽の迫力。本当に熱中していました。屋上では、天空に舞うようなペンギンの群れ、愛嬌のあるオットセイたちに、子ども達はそれぞれ話しかけていました。

(2面に続く)



会長挨拶「学ぶ楽しさ、子ども達に」寺崎志野(2021.11.26 就任)

若葉の季節、元気な子ども達の声が聞こえて来て、こちらまで気持ちが弾んできそうです。子ども達は胸をふくらませ、未来の何かを求めて走っています。このエネルギーはどこからわいてくるのでしょうか。その素晴らしさに感激し、感謝したい気持ちになります。

コロナ禍ですべての人的交流を止められ、辛い思いを声に出さずにやってきたのに、次はウクライナでの戦禍の映像を目にしている子ども達。戦地の悲劇は想像を絶しますが、世界中の子ども達にとっても、悲劇の影響は長く残ります。

私の祖母、両親、先生方は戦争時代を生き延び、戦後の日本復興を成した世代です。彼らから受けた見守りの言葉、教育の機会、学びへの興味や好奇心の持たせ方が、私の人生の礎を作ってくれました。その事を思い出しています。

今、このコロナ禍とウクライナの戦禍の時だからこそ、子ども達に学ぶ楽しさと必要性を伝える活動をしたいと思います。

子ども達には、憧れやヒーローが必要です。世界で活躍している、松山英樹さん、大谷翔平さんがモデルです。お二人は見えない場所で筆舌に尽くし難い努力をされていると聞きます。「心技体」そして「礼儀と謙虚さ」が彼らを律しています。そのことを子ども達に伝えていきたい、それは大人の私達も自らに言い聞かせることになります。

地球と人間の未来を担うのは、子ども達です。会員の叡智と行動で子ども支援の輪を広げていきたいと願っています。





シナリオづくりにも挑戦 子どもスマイル in サンシャイン

今回は初めての試みとして、子ども達はシナリオ・ライティング(物語づくり)に挑戦しました。

水族館見学が終わった後、ビル側が無償で提供してくれたカンファレンスルームで、一時間ほど、小林幸恵会員(シナリオセンター代表)と講師の新井一樹さんに指導していただきました。

主人公の名前を考えることから始め、ひとりひとりが物語づくりに取り組み、何人かはみんなの前で発表もしました。テーブルクロスに使った大きな色紙にそれぞれの思いを絵に描いたりもして、とても楽しい時間になりました。親子で参加した家族は親子が対話する機会にもなったようで、子どもたちが「ぜひ続けてくださいね。絶対だよ」と言っていたのが心に残りました。

そのあと、サンシャインの方が用意してくれた特製のお弁当を皆で食べました。ハンバーグやエビフライなど大好きなものがいっぱい詰まったお弁当で、イルカをかたどったおにぎりが特に人気でした。

子どもの居場所を提供して地域貢献するサンシャインビル、日頃から地域の子もたちを支援しているWAKUWAKUネットワーク、そして企画・運営に当たったキワニスクラブが協力することで実現したこのイベント。コロナ渦を乗り越えて、定着することを願っています。

(事業企画委員会)



小林幸恵会員(シナリオセンター代表)

今回のキッズシナリオは春休みなので、物語づくりの楽しさを感じてもらおうと行いました。ちょっと大変だったのは、年齢もばらばらで、字を書けない3歳児から高校生まで、ネパールや中国の子もなど多種多様で、日本語を書けない、読めない子どももいて、さすがに戸惑いました。でも、うまく書けない子は書けないなりに、書きたい子は裏までびっちり、15分くらいでシナリオを描いてくれました。

ウクライナの難民だけでなく、多国籍の子もたちが日本にも増えてきています。生き方、育ち方、言葉の違う人々がお互いを知るためにも、シナリオをうまく使って、相手への想像力を広げていけたらと思います。それは、案外難しいことではなく、自分と違うことを面白がって出会えば、多種多様の集まりでも、なんとなく気持ち通じるものだと思います。

栗林知絵子(豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長)

春休みのステキな思い出づくりに、心から感謝申し上げます。

参加した子どもたちの声。「魚がいっぱい見られて嬉しかった」「カワウソとチンアナゴが可愛かった。また行きたい」「印象に残ったのは一番がクラゲ(キレイだった)、二番がサメ(かっこよかった)、三番がアザラシ(可愛かった)」「ペンギンが泳いでいるところでパンフレットを丸めてかざすと反応してひよいひよい後を追いかけてくるのが面白かった。同じ学年の中国の男の子がいたから中国語で喋ったり遊んだりしたのも楽しかった」「シナリオ作りも母や弟と一緒に考えるのがとても面白かった。またこのようなイベントがあったら是非参加したい」

大学生ボランティアからは「参加できてよかった。さまざまな年代の人が関わっていて素晴らしい。子どもとも親しくなれてよかった。また参加したい」との感想が届きました。

以前参加していた中学生が、成長して高校生になり今回はボランティアで参加しました。このつながりは、人にやさしい未来につながっているなあと感じています。

会員みんなで作業 キワニスワンデー 2021.10.15

世界中のキワニスクラブ会員がいっせいにボランティア活動に取り組む「キワニスワンデー」。東京クラブはこの日の例会後に会員が集まって、ドールづくりの準備作業をしました。主な仕事は綿の重さを測りながら小分けする作業



(写真左)と、

人形のかたちに縫った布を裏返す作業(写真右)。日頃なじみのない作業にもかかわらず、熱心に取り組むことができました。

(ボランティア活動委員会)



キワニス奨学生、2人が卒業・就職 新たに1人に支給開始

児童養護施設を巣立って大学や専門学校に進学した学生に対し3か月ごとに生活支援金を支給している「キワニス奨学金」。この春に2人の奨学生(女子)が無事に専門学校を卒業しました。Sさんはビジネス系の専門学校を出て、企業に事務職として就職。美容系専門学校に学んだTさんはコロナ渦で苦労しながらアルバイトを続け、無事に国家試験に合格して美容室に就職しました。

この奨学金制度がスタートして5年。この2人を含めて、6人の奨学生が1人も中退することなく、そろって社会人として一歩を踏み出せたことは、寄付を通じて伴走してきた会員にとっても大きな喜びです。

4月から新たに男子大学生1人に支給を始めました。

(事業企画委員会)

寺子屋 in 妙法寺

2021年の12月4日(土)で「寺子屋in妙法寺」は100回を迎えました。当日は子ども達がケーキに100回記念のデコレーションをしたりして、スタッフと一緒に祝いました。参加した33人の子ども達はお菓子などたくさんのお土産を受け取り、大喜びでした。

2017年12月に最初の寺子屋が開催されて4年間、毎月2回程度の頻度で実施してきました。

会場を提供して下さっている杉並・堀之内の妙法寺、子どもに人気の料理やケーキなどをいつも作ってくれるNPO法人すぎなみ子どもサポートのボランティアの方々、そして受付や後片付けにも力を出す東京キワニスクラブの会員、みんなの協力で続けることができています。

おかげさまで「第100回」
2021.12.4.



子ども達の未来が少しでも明るくなるよう、200回に向かって寺子屋を続けていきたいです。

お正月は恒例の書初め

2022.1.7.

1年で最初の寺子屋は恒例の「書き初め」。お正月のイベントとして2018年から毎年、続けています。今年(2022年)は1月7日に開催しました。

前日の降雪の影響で子ども達が来られるか心配しましたが、9時前から次々に到着し一安心。高学年(16人)は大広間で大きな半紙に「毛筆」で、低学年(16人)は机に向かって「硬筆」で、それぞれ習字をしました。今回もキワニス会員のご家族、友人が習字の指導に当たりました。

子ども達から「こんなに一生懸命文字を書いたことは初めて。」「上手くなっていることが実感できた。」「作品の中でどれが一番良いか家族に決めてもらう。」「満足そうなコメントがありました。

書き初めが終わった子どもから、美味しいお雑煮を食べ、お正月気分。帰りにはキワニス会員の紹介で株式会社不二家様からご提供いただいたミルクィー、カントリーマームなどお菓子がたくさん入ったバッグをお年玉代わりに受け取り大喜び。今年も楽しい書き初めとなりました。



春は6年生の卒業・進級、みんなでお祝い 2022.3.26.

3月は卒業・進級の季節。そこで初めて「卒業・進級お祝い会」を催しました。最初の1時間は、子ども達は勉強に集中、ボランティアのスタッフは食事の用意。壁には子ども達、スタッフ等関係者からのお祝いのメッセージが。

食事の前には小学校を卒業し、私立中学に進学が決まった2人の6年生女子がみんなの前で挨拶、そのしっかりとした話し方に大人も感心しました。2人からは「中学生の寺子屋をつかって欲しい」とのリクエスト。5年生以下の子ども達からは上級生とずっと仲良くなりたかったとの話も聞こえた。

食事のメニューは盛り沢山。多すぎたかなと心配したが概ね完食で、フードロスが発生せず。

「記念のケーキ」に卒業する子ども達が「卒業・進級」の文字をデコレーション。チョコレートの出が悪くて難しい作業となり、中学校の入試より難しかったとの感想。子ども達は食後にお土産をもらい、帰っていった。

この催しを通じて、学年を超えた子ども達の間結びつき大切さを再認識。今後の寺子屋での「居場所作り・子ども達とのネットワーク作り」に生かしていきたいと強く感じました。



(事業企画委員会)

新年互例会 2022.1.12. 学士会館

前年はコロナ渦で中止だったため、2年ぶりの開催となった新年互例会。ドイツ在住の世界的なオーボエ奏者、渡辺克也氏(石井亜佳理会員の高校同窓)がゲストとして演奏し、会員・家族がすばらしい音色を楽しみました。恒例の年男・年女のお祝いは、今年72歳になる1950年(昭和25年)生まれの方が多く、しかも小学校から中学・高校まで同窓・同級という間柄の会員もいて、仲の良さを印象付けていました。



チャリティゴルフ大会 2021.11.17.

名門、狭山ゴルフクラブ(埼玉県入間市)で開催、天気に恵まれ、13人が参加しました。入会后初参加という会員もいて、大いに懇親を深めました。ゲストとして参加した女性がこれを契機に、入会するなど、キワニスの輪を広げることに一役買っています。参加費の一部はメルシー募金にしました。(レクリエーション委員会)

国際懇話会 2021.11.8.

平林博氏((公財)日印協会代表理事・理事長)
インドは超大国になるか:インド太平洋ビジョンにおけるインドの重要性

金曜昼の例会

第1・3・5週の金曜に学士会館で例会を開催、ランチをとりながら識者の卓話を聞き、会員相互の交流を深めています。コロナ渦のため2~3月は中止でした。

- 福崎聖子氏 (みなと子ども食堂理事長・弁護士)
子ども食堂の役割と課題~NPO法人みなと子ども食堂の活動を通して~
- 小島勢二氏 (名古屋大学名誉教授 名古屋小児がん基金理事長)
日本で遺伝子治療が根付くには
- 増山壽一氏 ((一社)カーボンニュートラル推進協議会 代表理事)
脱炭素か活性炭か ~カーボンニュートラル社会の実現に本気で取り組む~
- 浅野大介氏 (経済産業省教育産業室長 未来教室の著者)
教育DXと「未来の教室」-主体性回復の教育システム改革試案
- 小原直花氏 (ifs未来研究所 上席研究員)
解適化(かいてきか)~世代別に分析する消費意識と生き方



新入会員紹介

- ROTH ERIC (ロス エリック)
入会日 2021年11月 5日
- 久我泰博(くが やすひろ)
入会日 2021年11月26日
- 田崎裕子(たさき ゆうこ)
入会日 2022年 1月21日
- 遠藤由美子(えんどう ゆみこ)
入会日 2022年 1月21日

事務局便り

米国籍の方、元裁判官、女医さん…。新入会員の顔ぶれは実に多様で、キワニスに新しい風を吹き込んでいただけそうです。

編集後記

目を輝かせて水族館の水槽をのぞきこむ子ども、真剣な眼差しで書初めに集中する子ども。個人情報保護法や肖像権の制約に加えて、マスク着用で、その表情が十分に伝えられないのがなんとも残念です。

(広報委員会)